

第4学年体育科学習指導案

日時：令和5年5月31日(水)第5校時 場所：体育館

授業者：

1. 単元名「ティーボール」

2. 指導観

(1) 単元について

攻撃と守備を交代で行い、ティーにのせたボールをバットで打ってベースを回って得点を上げたり、素早く捕球して投げることで相手の得点を防いだりして、勝敗を競い合うことが楽しい運動である。また、ゲーム状況に応じた戦術的な行動判断が求められる。本単元では、大きなボールを使い、打つ喜びや、仲間からのボールを捕球して得点を防ぐ喜びを味わわせたい。

(2) 児童の実態について

キックベースの学習でベースボール型の基本的なルールについては十分に理解できている。自分の結果や勝敗にこだわる児童が多く、ゲーム中にトラブルになることも少なくない。本時は、仲間の技能向上がチームの技能向上につながると考え、チームのためにアドバイスをしたり、練習方法を工夫したりしながら仲間と関わらせたい。

3. 研究内容に関わって

【研究内容Ⅱ(2)】

スコアブックを使うことで前時までの振り返りから、本時の課題を見つけ主体的に練習に取り組むことができる。練習中には遅延再生アプリを使うことで即時自分の姿を振り返り、次の運動に繋げることができる。自己やチームの課題を正確に知り、客観的に動きを捉えることで、仲間との関わりが増え、主体的に学ぶ子の育成につながると考える。

4. 単元構造図(別紙)

5. 本時のねらい

前時までのドリルゲームをもとに、本時の課題を、打つ、捕る、投げるの中から選り練習することを通して、よりよい練習方法に気づき、仲間に関わりやすく伝えることができる。

6. 本時の展開(4/8)

	学習活動	指導上の手立て・留意点・支援等
導入	<p>1 準備体操、慣れの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> 慣れの運動は3分毎にローテーションで行う。 <p>2 本時の課題、技能ポイントの確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>チームの力をレベルアップするために練習方法を工夫しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> バットを置く位置や移動するルートなど安全面に配慮して行わせる。 児童の言葉で各技能のポイントを発表させ、板書に位置付ける。
展開	<p>3 グループ計画会</p> <ul style="list-style-type: none"> スコアブックを見合いながら課題設定し、練習方法、練習意図を提案、確認する。 <p>4 練習①・②</p> <p>〈打つ練習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 右方向に打ちたいから、足を置く位置をななめにしよう。 狙いたい方向に打てたら得点が多く入るように場所を変えよう。 <p>〈捕る練習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ボールの正面に移動するために、転がったボールをまたぐ練習をしよう。 <p>〈投げる練習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ボールを投げる距離によって、「下から優しく」や、「ワンバウンドで素早く」を使い分けよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時までのスコアブックから自分やチームの課題を明確にする。(▲知る) 各チームの課題に沿った練習方法を選ぶことができているか確認する。 タブレットの遅延再生アプリを使って自分と仲間の動きを比較する。(◆見る) 技能ポイントや、チームの課題に沿ったアドバイスを互いに伝え合える姿を価値付ける。(★支える) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準(思考力・判断力・表現力等)</p> <p>前時までのドリルゲームをもとに練習方法で工夫することを、動作や言葉、絵図などを使って仲間伝えることができる。</p> </div>
終末	<p>6 グループ反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のふりかえりをする。 新たな課題点について話し合う。 <p>7 全体反省会</p> <ul style="list-style-type: none"> 各チームのMVPを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仲間のよかったところや、自分の上手くできたところを確認する。 技能が高い児童ではなく、アドバイスができていた姿や課題に向かってひたむきに努力する姿を価値付けたい。

